

## あとがき

本書は、2010、11年度に立教大学文学部人文研究センターにおいて実施された共同研究プロジェクト「異文化間」の誕生と成立に関する理論的及び事例的研究」の研究成果の一部である。

立教大学文学部人文研究センターは、専門領域横断的な研究の推進を掲げ、従来数々の共同研究プロジェクトを企画、実施してきたが、本共同研究プロジェクトは、こうしたインターディシプリナリティへの視点を継承しつつ、更にトランスディシプリナリな問題設定と分析スタンスの可能性を問おうとしたものであった。当初の研究目的には次のように記してある。

本研究においてはまず、特定の時代・地域における「諸文化」の接触に起因する、個別「文化」に収斂され得ぬ新たな現象の成立の現場に立つことを旨としたい。換言すれば諸「異文化」間の境界を越境することによってのみ成立する新たな現象の成立の現場に着目し、その諸相を解明したい。そのために、……研究分担者各自のディシプリン及び研究領域を意図的に越境し、トランス・ディシプリナリな人文学研究を構築していく。

このように本共同研究は当初より、対象とする現象に見られる「異文化間」性への眼差しと共に、それを眼差す研究の「異文化間」性、トランスディシプリナリティへの視線によって貫かれていた。そのささやかな成果の一部をここに本書として上梓する運びとなったが、それが研究プロジェクトの当初の目的に相応しいものとなっているか否か、たいへん心もとな

いものがある。読者諸氏のご判断とご批判にお委ねする次第である。

本共同研究プロジェクトの実施並びに遂行に当たり、並々ならぬご尽力を賜った方々に対し、この場を借りて深謝の念を述べさせていただきます。まず、本共同研究発足に際し、その基本的な構想の枠組みを与えて下さったのは、当時の人文研究センター長千石英世氏である。氏の構想とセンター長としてのご支援とご尽力なくしては、本書がこうした形で日の目を見ることがなかつただけでなく、そもそも本研究プロジェクト自体の成立もあり得なかつた。本研究プロジェクト発足後、各研究分担者によって具体的に研究が進捗していく過程では、千石氏を継いでセンター長としてご活躍された林みどり氏、並びに丸山浩明氏のお二人には、研究プロジェクト遂行上の様々な局面において多大のご示唆とご協力を賜った。殊に研究成果の公表の方法については、お二人は様々な局面で労を厭わずご献身くださった。また、本共同研究の遂行並びに本書の刊行にあたって、立教大学学部事務一課の菅原春美氏は、わたくしどもの無理難題にも拘わらず、煩瑣な事務的作業の労をお取りくださった。そして、本書がこうした形で上梓されるに至ったのは、リトンの大石昌孝氏の並々ならぬご手腕と氏の大いなる忍耐力のお蔭である。ここに改めて、諸氏のご尽力とご協力、並びにご献身に対し、心より深謝申し上げる次第である。

本書にご執筆くださった方々には、本書の刊行が遅延に遅延を重ねてしまったことを、この場を借りて深くお詫び申し上げたい。共同研究プロジェクトの代表者として、そして本書の編集責任者として、自らの至らなさを恥じ入るばかりである。

本書がトランスディシプリナリな学問研究に多少なりとも寄与するものとなることを祈りつつ。